

試 験 用 紙

新潟大学医学部

試験科目名	内科学 第	番 号		氏 名	
-------	-------	-----	--	-----	--

I 成人発症ステイル病について述べよ

平均 2.36点/5

# 試 験 用 紙

新潟大学医学部

試験科目名	内科学 第二	番 号		氏 名	
-------	--------	-----	--	-----	--

II 慢性血液透析患者の骨関節障害について述べよ

平均 1.90点 / 5

# 試 験 用 紙

新潟大学医学部

試験科目名	内科学 第二	番 号		氏 名	
-------	--------	-----	--	-----	--

III 慢性肺気腫の(1)定義、(2)病態、(3)病型、および(4)治療について述べよ

平均 3.72 点 / 5

# 試 験 用 紙

新潟大学医学部

試験科目名		番 号		氏 名	
-------	--	-----	--	-----	--

IV 菌血症につき、(1)起炎菌 (2)侵入門戸 (3)臨床症状 (4)治療を述べよ

平均 3.95点 / 5

# 試 験 用 紙

新潟大学医学部

試験科目名

自由記述第一

番 号

氏 名

V 小細胞性肺癌における化学療法の意義について述べよ

平均 2.54 点 / 5

# 試験 用 紙

新潟大学医学部

試験科目名	内科学 第二	番 号		氏 名	
-------	--------	-----	--	-----	--

  

1. 血尿に関して正しいのはどれか

正解率 81.8%

(1) 正常者では、尿中に赤血球は認められない  
 (2) Addis-count法で赤血球数を計測する  
 (3) 試験紙法による潜血反応は、尿中ミオグロビンの存在で陽性となる  
 (4) 肉眼的血尿では、尿中に血液が1～2%程度以上混入している

a. (1)(3)(4)のみ                      b. (1)(2)のみ                      c. (2)(3)のみ  
 d. (4)のみ                                  e. (1)～(4)のすべて

  

2. 尿中 $\beta_2$ -ミクログロブリン排泄が増加するのはどれか

36.3%

(1) 慢性カドミウム中毒  
 (2) 移植腎  
 (3) シスプラチンの副作用  
 (4) 抗生物質(アミノグリコシド)の副作用

a. (1)(3)(4)のみ                      b. (1)(2)のみ                      c. (2)(3)のみ  
 d. (4)のみ                                  e. (1)～(4)のすべて

  

3. 糸球体濾過値(GFR)と関連の強いのはどれか

72.7%

(1) クレアチニークリアランス  
 (2) セレクティビティインデックス(SI)  
 (3) 一日尿量  
 (4) フィッシュバーグ濃縮試験  
 (5) 血中 $\beta_2$ -ミクログロブリン

a. (1)(2)                                  b. (1)(5)                                  c. (2)(3)  
 d. (3)(4)                                  e. (4)(5)

  

4. 腎毒性の強い薬剤はどれか

90.9%

(1) シスプラチン  
 (2)  $H_2$ ブロッカー  
 (3) フェニトイン(アレビアチン)  
 (4) アミノグリコシド  
 (5) シクロスポリン

a. (1)(2)(3)                                  b. (1)(2)(5)                                  c. (1)(4)(5)  
 d. (2)(3)(4)                                  e. (3)(4)(5)

  

5. 尿細管間質障害をきたしやすいのはどれか

36.3%

(1) 全身性エリトマトーデス  
 (2) シェーグレン症候群  
 (3) 骨髄腫腎  
 (4) 痛風  
 (5) 紫斑病性腎炎

a. (1)(2)(3)                                  b. (1)(2)(5)                                  c. (1)(4)(5)  
 d. (2)(3)(4)                                  e. (3)(4)(5)

# 試験 用 紙

新潟大学医学部

試験科目名		番 号		氏 名	
-------	--	-----	--	-----	--

6. 尿細管障害を反映するのはどれか

- (1) フィッシュバーグ濃縮試験
- (2) 腎生糖尿
- (3) 尿中NAG (N-アセチルグコサミニダーゼ) 活性
- (4) PSP排泄試験

63.6%

- a. (1)(3)(4)のみ
- b. (1)(2)のみ
- c. (2)(3)のみ
- d. (4)のみ
- e. (1)~(4)のすべて

[症例] 22歳、女性。数年前から、健康診断のたびに、血尿を指摘されていた。1週前、感冒に罹患し、発熱と咽頭痛を訴え同時に肉眼的な血尿が認められたが、2週後消失した。今回、精査のために来院した。検査成績では、尿沈渣中の赤血球 10-20/毎視野、1日尿白量 0.2g/日、血清クレアチニン 0.9mg/dl、GFR 82ml/min、RPF 410ml/minであった。

7. 診断に必要な検査はどれか

- (1) 膀胱鏡検査
- (2) 位相差顕微鏡検査
- (3) 尿細胞診検査
- (4) 血清免疫グロブリン

18.1%

- a. (1)(3)(4)のみ
- b. (1)(2)のみ
- c. (2)(3)のみ
- d. (4)のみ
- e. (1)~(4)のすべて

8. 最も考えられる病変はどれか

- a. 管内性増殖性糸球体腎炎
- b. 管外性増殖性糸球体腎炎
- c. IgA型メサンギウム増殖性糸球体腎炎
- d. 非IgA型メサンギウム増殖性糸球体腎炎
- e. 膜性糸球体腎炎

18.1%

# 試 験 用 紙

新潟大学医学部

試験科目名		番 号		氏 名	
-------	--	-----	--	-----	--

[ 症 例 ] 25歳、男性。数日前に上気道炎症状が出現。今朝、尿の色が濃いことに気づき来院した。検査成績では、尿沈渣中の赤血球 20-30/毎視野、1日尿蛋白量 1.2g/日、ASLO 220 Todd単位、血清クレアチニン 1.0mg/dl、血清IgA値 490mg/dl、血清C3値 78mg/dlであった。また、咽頭培養ではα-ストレプトコッカス(++)、尿培養では有意菌(-)であった。

9. 上記患者に関して適当なものはどれか

- (1) メサンギウムのIgA1の顆粒状沈着
- (2) hump
- (3) 係蹄壁のC3の顆粒状沈着
- (4) thin basement membrane
- (5) メサンギウムのelectron dense deposit

72.7%

- a. (1)(2)
- b. (1)(5)
- c. (2)(3)
- d. (3)(4)
- e. (4)(5)

10. 抗好中球細胞質抗体(ANCA)が認められるのはどれか

- (1) ループス腎炎
- (2) 腎アミロイドーシス
- (3) 糖尿病性腎症
- (4) 半月体形成系球体腎炎
- (5) Wegener肉芽腫症

81.8%

- a. (1)(2)(3)
- b. (1)(2)(5)
- c. (1)(4)(5)
- d. (2)(3)(4)
- e. (3)(4)(5)

[ 症 例 ] 50歳、男性。10数年前から糖尿病に罹患、数年前から糖尿病性腎症による慢性腎不全と言われている。現在、血清クレアチニン 4.6mg/dl、クレアチニークリアランス 14ml/minである。

11. この患者の所見として適切でないのはどれか

- a. 夜間多尿
- b. 血圧 160/96mmHg
- c. 尿蛋白 4.2g/日
- d. Hb 15.4g/dl
- e. 動脈血 HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 20mEq/l

36.3%



# 試 験 用 紙

新潟大学医学部

試験科目名	番 号	氏 名
-------	-----	-----

12. 血液浄化について正しいのはどれか

- (1) 尿量が2,000ml/日以上あれば緊急導入の必要はない
- (2) 血清クレアチニンが4mg/dlに達すると適応となる
- (3) 血液濾過透析では5l/日以上の除水は困難である
- (4) 無ヘパリン血液透析は不可能である
- (5) 腹膜透析では蛋白が失われる

18.1%

- a. (1)(2)
- b. (1)(5)
- c. (2)(3)
- d. (3)(4)
- e. (4)(5)

[症例] 40歳、男性。血液透析歴12年。1年前から言語障害と精神症状とがあり、2ヵ月前から痙攣と痴呆とが出現した。

13. 病因に最も関係があるのはどれか

- a. リン
- b. カルシウム
- c. 鉄
- d. 亜鉛
- e. アルミニウム

90.9%

[症例] 18歳、女性。6ヵ月前に霧視を訴え、ぶどう膜炎の診断で治療を受けている。1ヵ月前から多飲と多尿とが続いたため来院した。  
体温 37.4°C。両側耳下腺の腫脹がある。  
血清生化学所見：Na 152mEq/l、K 3.1mEq/l、Ca 12.8mg/dl、抗利尿ホルモン 0.2pg/ml（正常0.5～2.0）。  
尿所見：尿量 4,500ml/日、比重 1.004。

14. この患者の多尿の原因として正しいのはどれか。

- a. 低カリウム血症
- b. 高カルシウム血症
- c. 心因性多飲症
- d. 中枢性尿崩症
- e. 慢性腎盂腎炎

36.3%

# 試験 用 紙

新潟大学医学部

試験科目名		番 号		氏 名	
-------	--	-----	--	-----	--

[ 症 例 ] 22歳、女性。高血圧を主訴として来院した。血圧 170/110mmHg  
脈拍 70/分、整。尿所見：蛋白(-)、糖(-)、沈渣異常なし。  
血清生化学所見：尿窒素 9mg/dl、クレアチニン 0.8mg/dl、Na 146  
mEq/l、K 3.0mEq/l、Cl 102mEq/l、血漿レニン活性 0.2ng/ml/1  
時間(正常 1.2~2.5)、血漿アルドステロン濃度 4ng/dl(正常 5  
~12)

15. 高血圧の原因として考えられるのはどれか

- (1) 経口避妊薬
- (2) グリチルリチン
- (3) コルチコステロン産生腫瘍
- (4) Liddle症候群
- (5) 特発性アルドステロン症

54.5%

- a. (1)(2)(3)
- b. (1)(2)(5)
- c. (1)(4)(5)
- d. (2)(3)(4)
- e. (3)(4)(5)

16. 抗リン脂質抗体と関連する症候で、正しいのはどれか

- (1) 静脈血栓症
- (2) 間質性肺炎
- (3) 血小板減少
- (4) 反復性流産

45.4%

- a. (1)(3)(4)のみ
- b. (1)(2)のみ
- c. (2)(3)のみ
- d. (4)のみ
- e. (1)~(4)のすべて

17. 正しいのはどれか

- (1) ウェゲナー肉芽腫症では、腎障害は稀である
- (2) リウマチ性多発筋痛症では、CPKの上昇が特徴的である
- (3) 強皮症腎では、血圧が上昇する
- (4) 梅毒反応生物学的偽陽性は、抗リン脂質抗体と関連する
- (5) Lansbury指数の評価には、赤沈値の測定が必要である

72.7%

- a. (1)(2)(3)
- b. (1)(2)(5)
- c. (1)(4)(5)
- d. (2)(3)(4)
- e. (3)(4)(5)

# 試 験 用 紙

新潟大学医学部

試験科目名	番 号	氏 名
-------	-----	-----

18. 正しい組合せはどれか

- (1) シェーグレン症候群 — ガム試験  
 (2) 強皮症 — 食道造影  
 (3) 混合性結合組織病 — ドプラー心エコー  
 (4) 多発性筋炎 — 血中アルドラーゼ測定

- a. (1)(3)(4)のみ      b. (1)(2)のみ      c. (2)(3)のみ  
 d. (4)のみ      e. (1)～(4)のすべて

19. 正しい組合せはどれか

- (1) 皮膚筋炎 — ゴットロン徴候  
 (2) 強皮症 — 仮面様顔貌  
 (3) 混合性結合組織病 — 針反応陽性  
 (4) ベーチェット病 — ソーセージ様手指  
 (5) 慢性関節リウマチ — ボタン穴変形

- a. (1)(2)(3)      b. (1)(2)(5)      c. (1)(4)(5)  
 d. (2)(3)(4)      e. (3)(4)(5)

20. 正しいのはどれか

- (1) ループス腎炎では、CRPが活動性の指標となる  
 (2) 慢性関節リウマチのclass分類は、進行度の分類である  
 (3) 強皮症では、副腎皮質ステロイド薬の大量療法が一般的である  
 (4) 強皮症の皮膚病変は、浮腫期、硬化期、萎縮期と進行する

- a. (1)(3)(4)のみ      b. (1)(2)のみ      c. (2)(3)のみ  
 d. (4)のみ      e. (1)～(4)のすべて

21. 本態性高血圧について正しいのはどれか

- (1) 血圧は一般に、昼高く、夜低い  
 (2) 拡張期血圧が90mmHg以上なら、薬物療法を開始した方がよい  
 (3) 塩酸クロニジンは第一選択薬である  
 (4) 腎動脈狭窄が存在することがある  
 (5) 眼底動脈の動脈壁の反射亢進は、高血圧性変化である

- a. (1)(2)(3)      b. (1)(2)(5)      c. (1)(4)(5)  
 d. (2)(3)(4)      e. (3)(4)(5)

22. 慢性腎不全に伴う高血圧について正しいのはどれか

- (1) レニン・アルドステロン系亢進  
 (2) 水分貯蓄  
 (3) 甲状腺機能亢進  
 (4) 副腎髓質過形成

- a. (1)(3)(4)のみ      b. (1)(2)のみ      c. (2)(3)のみ  
 d. (4)のみ      e. (1)～(4)のすべて

# 試験用紙

新潟大学医学部

試験科目名		番号		氏名	
-------	--	----	--	----	--

23. 原発性アルドステロン症について正しいのはどれか

- (1) レニン高値
- (2) 傍系球体装置過形成
- (3) アルカローシス
- (4) 水分貯蓄
- (5) 高カリウム血症

- a. (1)(2)
- b. (1)(5)
- c. (2)(3)
- d. (3)(4)
- e. (4)(5)

24. 糖尿病について正しいのはどれか

- (1) 顕性腎症では、血糖コントロールの状態に関係なく、腎機能障害が進行する
- (2) 低蛋白食は腎症の進行を抑制する効果がある
- (3) 網膜症と腎症の合併頻度を比較すると、前者の方が高い
- (4) 高血圧のコントロールは、腎症の早期から末期まで、腎機能の保持に重要である

- a. (1)(3)(4)のみ
- b. (1)(2)のみ
- c. (2)(3)のみ
- d. (4)のみ
- e. (1)～(4)のすべて

25. 正しいのはどれか

- (1) 糖尿病の診断に経口ブドウ糖負荷試験は不可欠である
- (2) 食事療法は合併症の状態に応じて変更する必要がある
- (3) インスリン分泌は、血・尿中C-ペプチド値から推定できる
- (4) 肥満糖尿病患者に薬物療法を開始する前には食事・運動療法を行う
- (5) インスリンは中間型と速効型を併用してはならない

- a. (1)(2)(3)
- b. (1)(2)(5)
- c. (1)(4)(5)
- d. (2)(3)(4)
- e. (3)(4)(5)

# 試 験 用 紙

新潟大学医学部

試験科目名		番 号		氏 名	
-------	--	-----	--	-----	--

[ 症 例 ] 45歳、男性。喫煙歴なし。咳嗽、粘稠な喀痰、発作性喘鳴を主訴に来院した。胸部の聴診では wheeze、rhonchiを聴取。白血球数  $9,500/\text{mm}^3$ 、好酸球 15%。胸部X線写真で、右中肺野に肺門部に接して、不整形陰影とその末梢に無気肺像が認められた。気管支鏡検査を行ったところ右B<sup>3</sup>の閉塞を認めた。その部の生検では、粘液、好酸球、変性した細胞より成る、器質化した粘液栓を認め、少数の菌糸が観察された。

26. 最も可能性の高い疾患はどれか

- a. 肺癌
- b. 気管支結核
- c. 過敏性肺炎
- d. アレルギー性気管支肺アスペルギルス症
- e. 気管支喘息

90.9%

27. 本症の特徴として正しいのはどれか

- (1) 移動する肺浸潤影の既往があることが多い
- (2) 血清IgE値が上昇している
- (3) アスペルギルスに対する沈降抗体が陽性である
- (4) 中心性気管支拡張症がみられる

- a. (1)(3)(4)のみ
- b. (1)(2)のみ
- c. (2)(3)のみ
- d. (4)のみ
- e. (1)～(4)のすべて

36.3%



# 試 験 用 紙

新潟大学医学部

試験科目名	番 号	氏 名
-------	-----	-----

28. 気道過敏性テストに用いられない物質はどれか

- (1) アセチルコリン
- (2) メサコリン
- (3) ヒスタミン
- (4) プロブラノロール

54.5%

- a. (1)(3)(4)のみ
- b. (1)(2)のみ
- c. (2)(3)のみ
- d. (4)のみ
- e. (1)~(4)のすべて

29. 正しい組合わせはどれか

- (1) 慢性肺気腫 — — — — — 静肺コンプライアンスの低下
- (2) び慢性汎細気管支炎 — — 残気量の減少
- (3) 過換気症候群 — — — — — 動脈血  $P O_2$  の上昇
- (4) 特発性間質性肺炎 — — — 肺拡散能 ( $D L_{CO}$ ) の低下
- (5) 肺胞低換気 — — — — — 動脈血  $P CO_2$  の上昇

63.6%

- a. (1)(2)(3)
- b. (1)(2)(5)
- c. (1)(4)(5)
- d. (2)(3)(4)
- e. (3)(4)(5)

30. 閉塞性障害をきたすのはどれか

- (1) 慢性肺気腫
- (2) び慢性汎細気管支炎
- (3) 気管腫瘍
- (4) 特発性間質性肺炎
- (5) 肺梗塞

72.7%

- a. (1)(2)(3)
- b. (1)(2)(5)
- c. (1)(4)(5)
- d. (2)(3)(4)
- e. (3)(4)(5)

31. 動脈血  $CO_2$  分圧の上昇を伴った低  $O_2$  血症 (II型呼吸不全) になり易い疾患はどれか

- a. 慢性肺気腫
- b. 気管支喘息
- c. サルコイドーシス
- d. 特発性間質性肺炎
- e. 肺梗塞

36.3%

32. 本邦で在宅酸素療法に導入される基礎疾患でもっとも多いのはどれか

- a. 肺結核後遺症
- b. 原発性肺高血圧症
- c. 肺血栓塞栓症
- d. 慢性肺気腫
- e. 間質性肺炎

54.5%

# 試 験 用 紙

新潟大学医学部

試験科目名		番 号		氏 名	
-------	--	-----	--	-----	--

33. 高濃度酸素吸入療法が有効なのはどれか

- (1) 慢性肺気腫  
(2) び慢性汎細気管支炎  
(3) 肺結核後遺症  
(4) 一酸化炭素中毒

- a. (1)(3)(4)のみ      b. (1)(2)のみ      c. (2)(3)のみ  
d. (4)のみ      e. (1)～(4)のすべて

34. 肺水腫の胸部X線の特徴はどれか

- (1) butterfly shadow  
(2) air bronchogram  
(3) peribronchial cuffing  
(4) Kerley's B line

- a. (1)(3)(4)のみ      b. (1)(2)のみ      c. (2)(3)のみ  
d. (4)のみ      e. (1)～(4)のすべて

35. び慢性汎細気管支炎の胸部X線の特徴はどれか

- (1) 気管支肥厚像  
(2) 横隔膜低位  
(3) air bronchogram  
(4) 多発輪状影  
(5) びまん性粒状影

- a. (1)(2)(3)      b. (1)(2)(5)      c. (1)(4)(5)  
d. (2)(3)(4)      e. (3)(4)(5)

36. 本邦のサルコイドーシスについて正しいのはどれか

- (1) 胸部でfine crackleを聴取することが多い  
(2) 呼吸機能上拘束性障害をきたすことが多い  
(3) 呼吸不全に進展することが多い  
(4) 心病変としては刺激伝導障害が多い  
(5) 霧視や飛蚊症をきたす眼病変が多い

- a. (1)(2)      b. (1)(5)      c. (2)(3)  
d. (3)(4)      e. (4)(5)

37. びまん性汎細気管支炎で高頻度に見られるのはどれか

- (1) 好酸球増加  
(2) C E A 高値  
(3) C H A 高値  
(4) IgA高値  
(5) R A 陽性

- a. (1)(2)(3)      b. (1)(2)(5)      c. (1)(4)(5)  
d. (2)(3)(4)      e. (3)(4)(5)

# 試 験 用 紙

新潟大学医学部

試験科目名	番 号	氏 名
<p>[ 症 例 ] 68歳、男性。喫煙歴あり。数年前からの乾性咳嗽と労作時呼吸困難を主訴に来院した。チアノーゼはなかったが、ばち状指がみられ、胸部X線写真では肺底部に多発性輪状影と横隔膜の挙上が認められた。呼吸機能検査では、拘束性障害と拡散能低下が認められた。</p>		
<p>38. 最も考えられる疾患はどれか</p> <p>81.8%</p> <p>a. 過敏性肺臓炎 b. 特発性間質性肺炎 c. サルコイドーシス d. 慢性肺気腫 e. びまん性汎細気管支炎</p>		
<p>39. 胸部の聴診上、予測される所見はどれか</p> <p>54.5%</p> <p>a. fine crackle b. coarse crackle c. wheeze d. rhonchi e. 呼吸音減弱</p>		
<p>40. 予測される検査成績はどれか</p> <p>54.5%</p> <p>(1) ツベルクリン反応陰転化 (2) LDH上昇 (3) CEA上昇 (4) ACE上昇 (5) CHA上昇</p> <p>a. (1)(2)                      b. (1)(5)                      c. (2)(3) d. (3)(4)                      e. (4)(5)</p>		
<p>41. コレラで一般にみられる症状はどれか</p> <p>27.2%</p> <p>(1) 発熱 (2) 腹痛 (3) 下痢 (4) 嘔吐 (5) 血便</p> <p>a. (1)(2)                      b. (1)(5)                      c. (2)(3) d. (3)(4)                      e. (4)(5)</p>		



# 試験用紙

新潟大学医学部

試験科目名	番 号	氏 名
-------	-----	-----

42. 麻疹について正しいのはどれか

- (1) IgG 抗体は初期より上昇する
- (2) IgG 抗体の4倍以上の上昇は診断的価値がある
- (3) IgM 抗体の上昇は診断的価値がある
- (4) IgM 抗体はIgG 抗体より早期に出現する
- (5) IgA 抗体はIgM 抗体より早期に出現する

45.4%

- a. (1)(2)(3)
- b. (1)(2)(5)
- c. (1)(4)(5)
- d. (2)(3)(4)
- e. (3)(4)(5)

[症例] 42歳、女性。STSガラス板法 x32。TPHA x1280。アンピシリン1gを6週間内服したが、検査所見は不変であった。

43. 次にどの治療を行うべきか

- a. アンピシリン1gを筋注で使用する
- b. アンピシリンの服用量を4gとする
- c. マクロライド系抗生剤を使用する
- d. テトラサイクリン系抗生剤を使用する
- e. 治療を中止し、6ヶ月後に再検する

27.2%

44. HIV感染症で正しいのはどれか

- (1) HIV 抗体は、感染後平均1週で出現する
- (2) 免疫グロブリンは低下する
- (3) OKT4は低下する
- (4) クリプトコックス感染症をしばしば認める
- (5) アスペルギルス感染症をしばしば認める

81.8%

- a. (1)(2)
- b. (1)(5)
- c. (2)(3)
- d. (3)(4)
- e. (4)(5)

# 試験 用 紙

新潟大学医学部

試験科目名	番 号	氏 名
-------	-----	-----

45. 抗結核剤の副作用について正しいのはどれか

- (1) イソニアジド (INH) — — — — — 末梢神経炎
- (2) エタンプトール (EB) — — — — — 視力障害
- (3) リファンピシン (RFP) — — — — — 肝障害
- (4) ストレプトマイシン (SM) — — — — — 痙攣
- (5) パラアミノサリチル酸カルシウム (PAS) — — 腎障害

36.3%

- a. (1)(2)(3)
- b. (1)(2)(5)
- c. (1)(4)(5)
- d. (2)(3)(4)
- e. (3)(4)(5)

[症例] 56歳、男性。健康診断で胸部レ線写真の異常を指摘され、精査の結果、原発性肺小細胞癌、T2N1M0、performance status 1と診断された。

46. この症例について正しいのはどれか

- (1) 臨床病期はIIIAである
- (2) 臨床病期はextensive disease(ED)である
- (3) 化学療法単独で5年生存が期待できる
- (4) neoadjuvant chemotherapyの適応がある

63.6%

- a. (1)(3)(4)のみ
- b. (1)(2)のみ
- c. (2)(3)のみ
- d. (4)のみ
- e. (1)～(4)のすべて

47. 原発性肺癌の治療について正しいのはどれか

- a. 小細胞癌は、化学療法に対する反応性が低い
- b. 非小細胞癌では、シスプラチン(CDDP)+エトポシド(VP-16)が標準的化学療法として広く認められている
- c. G-CSF(顆粒球コロニー刺激因子)の併用により、より強力な化学療法が可能になった
- d. CDDPの最も重要な副作用は肝機能障害である
- e. VP-16の主な副作用は腎機能障害である

90.9%

# 試験 用 紙

新潟大学医学部

試験科目名		番 号		氏 名	
-------	--	-----	--	-----	--

48. 誤っているのはどれか

- (1) 骨髄異形成症候群(MDS)は骨髄移植の適応疾患である
- (2) MDSはほとんどの症例が白血病化する
- (3) t(8;21)はMDSに特徴的な染色体異常である
- (4) MDSでは、顆粒球系の細胞のみに異形成が見られる
- (5) MDSに対して、少量cytosine arabinoside療法が奏功することがある

72.7%

- a. (1)(2)(3)                      b. (1)(2)(5)                      c. (1)(4)(5)  
d. (2)(3)(4)                      e. (3)(4)(5)

[症例] 48歳、女性。原発性肺小細胞癌のため、化学療法を受けている時期に刺針部の止血困難、歯肉出血、紫斑を認めた。検査の結果、血沈1時間値 2mm、血小板数 0.8万、フィブリノーゲン 120mg/dl、FDP 200ng/ml、D-dimer高値であった。

49. とるべき処置はどれか

- (1) 濃厚血小板の輸注
- (2) Anti-thrombin III(AT-III)の測定
- (3) メシル酸ガベキサート(FOY)の持続静注
- (4) フィブリノーゲン製剤の輸注
- (5) ヘパリン(50,000 Unit/day)の持続静注

63.6%

- a. (1)(2)(3)                      b. (1)(2)(5)                      c. (1)(4)(5)  
d. (2)(3)(4)                      e. (3)(4)(5)

50. 血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)について正しいのはどれか

- (1) 赤血球寿命は高度に延長する
- (2) 血清の直接型ビリルビン値の上昇が見られる
- (3) 急性期を乗り切れば、再発することは稀である
- (4) 血漿交換療法が第1選択である

90.9%

- a. (1)(3)(4)のみ                      b. (1)(2)のみ                      c. (2)(3)のみ  
d. (4)のみ                      e. (1)~(4)のすべて